



青き楓

島高だより
平成28年10月号
(通巻第127号)

長崎県立島原高等学校
編集：研修広報部

校長室から



私と読書

校長 野田 定延

島高では校内読書感想文コンクールを実施しています。夏休みの宿題として読書感想文を課し、担当教師による3次までの予備審査を経た作品6編を、全校生徒・職員が審査するというものです。このコンクールには、夏休みの間にせめて一冊でも本を読んで読書に親しんで欲しいという私たち教師の思いが込められています。同時に、同じ島高に学ぶ仲間が、読書することの喜びや感動をどのように言葉に表現しているかを学んで欲しいという願いも込められているのです。

私には、小中高を通して読書の習慣がありませんでした。島高時代には国語が極端に苦手だったので、国語の先生が授業中に紹介された本(「伊豆の踊子」「金閣寺」「罪と罰」など)をしかたなく、しぶしぶ読みました。読んではみたものの、そこに何の魅力も楽しみも見出すことはありませんでした。それよりも数学や理科の問題を解いたり、英語の長文を読んだりすることの方がよほど楽しかったことを記憶しています。これではだめだと思ったのは、大学入学直後です。同じ数学科の友人の下宿を訪ねたとき、本棚にたくさんの本、特に文学作品が並んでいたことに私は大きな衝撃を受けました。また、法学部や経済学部の友人たちとの雑談で本が話題になることが多々ありました。しかし、その本を読んでいなかった私は会話にまともに参加できず、とてもなさげなかつたという苦い思い出があります。そういう経験から読書をするようになりました。ですから、私が自分の意志で読書を始めたのは、大学以降ということになります。今では好きな作家もいますし、毎年12月になると必ず読み返す愛読書もあります。

この経験を通して私が最も強く思ったことは「高校時代にもっと本を読んでおけばよかった。」ということです。ある調査では、現島高生の約40%が「本や新聞をほとんど読まない」という結果でした。読書の効用は、様々な情報が得られるだけでなく、何より考える力や文章を書く力が身につくところであると考えます。そして、様々なこととの思いがけない出会いがあります。皆さんは最近どんな本を読みましたか。読書の秋です。皆さんがこの秋、お気に入りの本に出会えることを期待します。

11月の主な行事予定

- 1日(火) 開校記念日
ハイレベル模試(1年希望者)
大学別オープン模試(3年)
- 2日(水) 県高校駅伝大会(小浜)
島高青楓塾
- 5日(土) 進研マーク模試(3年～6日)
- 7日(月) あいさつ運動(～11日)
中学校保護者対象入試説明会(南目)
中学校保護者対象入試説明会(北目)
- 8日(火) 中学校保護者対象入試説明会(北目)
- 9日(水) LHR:人権同和教育
中学校保護者対象入試説明会(市内)
- 10日(木) 授業公開(～11日)

- 11日(金) 学校評価(保護者回答締切)
- 12日(土) 大学別オープン模試(3年～13日)
- 14日(月) 島原半島学力向上 英語公開授業
- 15日(火) 体育部活動生支援学習会(～17日)
- 16日(水) LHR:情報モラルマナー教育
- 19日(土) 土曜講座(3年)
- 22日(火) 期末考査時間割発表(2年)
- 25日(金) 期末考査時間割発表(1年)
センター試験50日前
- 26日(土) 土曜講座(1年)
全統マーク模試(3年～27日)
島P連秋季研修会(ホテル南風楼)
- 29日(火) 期末考査(2年～12/2)

史上初！剣道少年男子3連覇！

～希望郷いわて国体～

剣道競技少年男子 優勝

松崎 賢士郎 江川 悠仁 岩永 一恵
長谷川倫太郎 松尾 倫太郎

本校単独チームで臨み、3年連続3度目の優勝という快挙を成し遂げました。

レスリング競技少年男子

フリースタイル55kg級
3位 金子 功誠



校内読書感想文コンクール(9月28日実施)

最優秀賞

2-6 林田 紗和「大人になるために」(明川哲也「星の降る町 六甲山の奇跡」)

優秀賞

2-3 八木 万悠子「宗教を超えて」(三浦 綾子「塩狩峠」)
1-1 伊崎 詩那「私は笑わない」(工藤 水生「笑えよ」)

優良賞

1-5 堀川 理乃「『永遠の0』を読んで」(百田 尚樹「永遠の0」)
1-4 櫻場 久子「『二十四の瞳』を読んで」(壺井 栄「二十四の瞳」)
1-6 川島 千明「『フラナリア』を読んで」(山本 文緒「フラナリア」)



69回生 見せろ！島高魂!!～進路実現に向けて～

3学年主任 田中 丸栄

■10月6日(木) 3年生激励会

大学入試センター試験まで、残り100日を切りました。刻々と時間が過ぎる中、3年生は必死に受験勉強に励んでいます。また、一足早く公務員試験や推薦入試、AO入試を受験している生徒もあり、各々が進路実現に向けて正念場を迎えています。

会では校長先生、PTA会長の本田裕章様の激励の後、PTAより千羽鶴およびしおりの贈呈がありました。その後、在校生より色紙の贈呈と激励、異動された先生方からのビデオメッセージ。3年生の各クラス代表者による決意表明の後、校歌を斉唱しました。応援団によるエールも送られ、長丁場となる受験期を乗り切ってほしい、という「チーム島高」の思いを届けました。

■10月7日(金) 学年登山

その翌日、センター試験99日前となり、これから本格的に動き出す進路決定に向けて、学年としての結束を高めるため、また、大きな達成感を味わうため、爽やかな秋晴れの下、3年生全員で登山を行いました。



中地区学習交流会

10月8日(土)～10日(月)、国立諫早青少年自然の家にて「中地区学習交流会」が行われ、志を同じくする生徒が一堂に会し、切磋琢磨することで受験に対する意欲を高めました。

本校からは約20名の生徒が参加し「一緒に戦う新しい仲間ができた」「他校の生徒のレベルの高さを思い知り、負けられないと感じた」といった感想を述べていました。

理数科1年生 研修旅行

理数科主任 植松 耕平

8月18日～19日、1年生が長崎総合科学大学との連携講座を受講し、大学の実験施設で先端の科学技術に触れ、科学的なものの見方や考え方、科学技術の基本原則について学びを深めました。



生徒感想より

■宇宙工学では、ロケットの原理などについて学びました。光の屈折を利用して空気の流れを目で見る事ができたのがとても印象的でした。とうもろこしからエタノールが作られること、再生可能エネルギーには「発電効率が悪い」という短所があることも初めて知り、興味深かったです。

■電気の実験が楽しかったです。自分の体を電子が行き来しているんだなと思うと、不思議な感じがしました。目の見えない人のための「電子網膜」が開発されていますが、少しでも早く実用化されるといいなと思います。

普段、当たり前のように使っている電気機器も、開発にはたくさんの人と実験が関わっていることが分かりました。身近なものを当たり前と考えるのではなく、その仕組みにも興味を向けていきたいです。

中学生対象 理数科説明会

理数科の取り組み★

10月15日(土)に中学生対象の島原高校理数科説明会を実施しました。当日は、中学生42名、保護者21名と多数ご参加いただき、大盛況となりました。

まずは野田校長の挨拶の後、「入学者選抜について」や生徒による「理数科紹介」を行いました。その後は2班に分かれて、理数科1年生で実施する「地学講座体験」や「DNAの抽出実験」を行いました。特に「地学講座体験」や「DNAの抽出実験」では、実際に高校生が行う内容を一足早く体験することで、中学生は島原高校理数科がどんなところなのかをイメージできたようでした。

ご参加いただいた中学生の皆さん、保護者の皆様、どうもありがとうございました。

参加生徒感想より

■普通科と理数科の違いを疑問に思っていましたが、今日の説明会のおかげでよく分かりました。自分が行きたい学科について、正確に知れたので参加してよかったです。

■将来、薬剤師になりたいと理数科を志望しています。数学が苦手なのが悩みですが、説明会に参加して、1年生の方から入試に向けてのアドバイスもいただいたので、合格できるように頑張っていきたいです。



2年生 進路講演会

2学年主任 小森 貴

10月5日(水)、中間試験最終日の午後に進路講演会を行い、講師の横山正裕先生(専門学校福岡カレッジ・オブ・ビジネス 進路ガイダンス部長)から「進路達成に向けて今なすべきこと」という演題でご講演いただきました。

「社会における挨拶の大切さ」「自信は作るもの」「『分からない、できない、向いてない』は3つの禁句。自分で壁を作らないように」といったお話を生徒たちはメモを取りながら聴き、大いに刺激を受けたようでした。



家庭科・保育分野の授業の一環として「乳幼児ふれあい体験」を実施しています。

赤ちゃん・お母さんボランティアの方々のご協力を頂き、生徒たちは赤ちゃんとふれあう経験を通して命の大切さを実感することができています。また、全員が妊婦体験をすることによって、自分が生まれた時のことに思いを馳せたり、将来、親になった時のことを考える機会になっているようです。

【生徒感想より】

★妊婦体験では、自分の母もこんな重いものを抱えていたんだなと思いました。爪切りもあまり自由に出来なくて、歩くのもきつくて、とても大変でした。将来のパートナーが大変な思いをしていたら、手助けしてあげようと思いました。この経験を通して、母への感謝がとても深くなったと思います。(男子)

★妊婦さんは、自分の命と新しい命を守りながら生活しなければならなかったと思います。重たいお腹を抱えながら、作業をしなくてはならないのは、本当に大変でした。でも、お腹の中に自分のかわいい子どもがいると思ったら、きつくて頑張れそうだと感じました。大変な時やきつい時は、周りの人に支えてもらったり、相談しようと思いました。(女子)

★乳幼児とふれ合うことがなかったので、とても楽しみにしていました。泣き出したのでおんぶをしたら、そのまま寝てしまい、とてもかわいかったです。自分の子どもだったら、もっとかわいく思うんだろうな、と思いました。(男子)

★ミルクをあげたことがなかったので、自分にも出来るか不安だったけれど、ものすごい勢いで飲んでくれました。最後の方は寝ながら飲んでいたので、とてもかわいかったです。赤ちゃんたちに癒されて、どんなに育児が辛いときも、子どもの笑顔を見ると頑張ろうという気になれそうだと思います。(女子)



平成28年度島原地区高等学校・特別支援学校PTA連合会秋季研修会 【11月26日(土) 14:00～17:40 於 ホテル南風楼】



『がまだして紡ごう親子の絆』を大会テーマに、前長崎女子短期大学学長・浦川末子氏による講演や、パネルディスカッションが行われます。

詳細・出欠につきましては、10月5日にプリントを配付しておりますので、ご確認ください。多くの保護者の皆様のご参加をお待ちしております。